

山田みやこの活動報告

令和4年7月15日(金)

県議会生活保健福祉委員会 現地調査

地元宇都宮の議員として栃木県立博物館を視察

県立博物館は1982(昭和57)年10月に考古・歴史・民族・美術工芸の人文系4分野と、動物・植物・地学の自然系3分野を備えた総合博物館として開館した。以来40年近く経過する中で資料の増加により収蔵環境が悪化し、資料収集のあり方について様々な検討が行われ収蔵庫棟の建設が必要とし、2020(令和2)年3月に完成した。

今回はその収蔵庫を視察、博物館の裏方の顔を見させていただいた。来館者が納得できるような展示を継続するための努力をあらためて確認した。

資料の天敵のカビや害虫の増殖を抑えるため室温22℃、相対湿度55%を目標値として収蔵庫内の温度・湿度を一定に保っている。空気中の酸やアルカリ・ホルムアルデヒドは資料を劣化させるため、それらを取り除くフィルターが空調機に取り付けられている。

収蔵庫には前室があり廊下の空気が収蔵庫内に直接流れ込むのを防ぎ、急な温度・湿度の変化が起きない。また収蔵庫は二重壁になっていて、より外の温度変化の影響を受けにくく電気の節約となる。

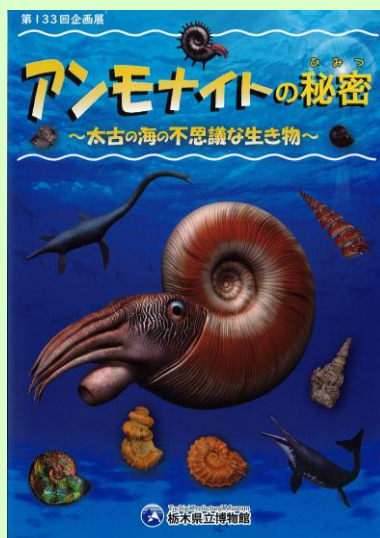
博物館の役割として本県の歴史や文化、自然に関する資料を収集し、“過去の人々の営みや自然の姿を物語るモノ”を先人から引継ぎ“今の姿を物語るモノ”を加えて、未来の人々に受け渡す使命がある。

博物館での展示の他、出張展示や研究資料として学習の支援など様々な活動がある。

幅広い年齢層を対象とした企画展は年に3回。中学生以下は入場無料とし、年間17万人の入場者がいる。

◎今後の企画展として下記を開催。多くの来場者を期待しています。

- 7/16～8/21まで
第133回企画展
「アンモナイトの秘密
～太古の海の不思議な生き物～」



- 9/17～10/30まで
開館40周年記念特別企画展
「鑑真和上と下野薬師寺
～天下三戒壇でつながる信仰の場～」

